

ガザの子どもたちに平和の日が来ることを心から願う

イスラエルからガザへの侵略が700日を超えた。死者は6万5000人を超え、今この瞬間も子どもと大人の非戦闘員が殺され続けている。国連は、この間停戦への国連決議や声明を何度も出し、イスラエルのガザでの行為を「ジェノサイド」大量虐殺と表明した。

国連総会では加盟国の7割142か国がパレスチナとイスラエルの2国家共存の宣言を採択している。

ガザの学校は8割が破壊され、町の9割が瓦礫状態となっている。イスラエルはカタールでの停戦交渉の最中に、仲介のカタールを攻撃し多くの人々を殺害した。

この9月16日には、パレスチナの中心都市ガザ市制圧作戦を開始した。15日の夜にガザへの大規模の空爆を実施し、16日には戦車を投入、ガザに残っている住民全てを標的にしたガザ市へ地上作戦を開始した。国際世論に背を向け、パレスチナに侵攻し、すべての命を虐殺する「イスラエル」の行為は、知性で築き上げてきた「文明・文化」と逆行する「野蛮」で、人間性のひとかけらもない行為である。ネタニヤフ首相と関連の閣僚は国連人権裁判所に出頭し裁きを受けなければならない。

無差別爆撃、ジェノサイドにより妊婦の胎内にやどったままに亡くなった赤ちゃん。友だちと群れて遊ぶこともなく、学習する機会も奪われた子ども、父と母を奪われた子ども、戦禍の中、いのちはとりとめたけれど、足や手がなくなり、目が見えない等、心と体に大きな傷を負った子ども、たくさんの子どもたちの不幸を生み出す戦争は大人がやり始める。

戦争を始めてはならない。

この夏に「鈴木敏夫とジブリ展」が開かれている。まさに知性と感性と文化と希望のあふれる企画だ。こんな素敵な文化にパレスチナの子どもたちに触れてほしい。鈴木さんとジブリが追求しているのは、生活の様々な体験を心の奥深くで一人一人が反芻し、夢や希望に昇華させ楽しい物語をつくり出し、みんなで共感すること。その大前提は「平和のもとにあること」である。

ガザの子どもたちは爆撃の恐怖の中で今も食べものと水を求めて街をさまよっている。孤独と飢えにさらされて、小さな命の火を必死になって燃やし続けているガザの子どもたちに平穏な日はいつ訪れるのか。

戦争放棄の憲法を持つ私たちの国の政府には、イスラエルの横暴を糾弾し、兵器供与はしないこと、パレスチナ難民を積極的に受け入れることを要望する。

2025年9月26日
あいち保育研究所